

## 社会性を育む「特別活動」の自立的実施へ！

- 実施団体：特定非営利活動法人 国境なき子どもたち
- 対象国：ヨルダン・ハシェミット王国
- 現地カウンターパート：ヨルダン教育省

### ■ 協力内容：

#### ①ヨルダン式特別活動の実践

- ・学級活動実施の上で基礎的な活動である「日直」
- ・「学級活動」では話し合いに焦点を当てた「学級会」
- ・「学校行事」などの仕組み作りとなる「縦割り班」活動



#### ②教育省との協働での実施体制の構築

- ・ガイドライン、教員向けハンドブックおよび視聴覚教材作成
- ・ヨルダン式特別活動の実施を支える運営モデルの構築

### ■ 団体のこれまでの取り組み：

中東における難民問題の勃発を受け、ヨルダンおよびパレスチナにおいて、脆弱な環境で暮らす子どもたちへの支援に注力。ヨルダンでは、膨大なシリア難民の流入に伴い、ザアタリ難民キャンプ及びその外のホストコミュニティでの支援を開始。シリア難民とヨルダン人の生徒に対し、共に勉強や活動に参加する機会の提供など、国籍の異なる青少年が互いに対する理解を高め、受入れ、両者がより円滑に共存していくことを目指した活動に力を入れてきた。

### ■ 事業実施の背景：

シリア難民の多くは難民キャンプ外のホストコミュニティで暮らしている。学校ではシリア人とヨルダン人の生徒間で軋轢が生じていたが、他者理解や協調性を高める取り組みが十分ではなかった。学校現場において、日本の教育活動の根幹をなす「特別活動」の実践とその実施体制の構築によって、異なる国籍の子どもらが共に学び、他者理解や協調性、規範意識といった社会性を高めることを目指した。

## ヨルダンの課題と成果

- 課題①**：国籍の異なる生徒同士のさまざまな軋轢や暴力行為、けんか等の問題が多発…。
- 課題②**：教員や保護者は、学校の目的を勉学のみとする傾向。社会性育成も目的にする課外活動時間が教育省により公的カリキュラムの一部として導入されたものの、目的が理解されないままの実施や学校により差が…。

### 成果①：子どもの社会性について肯定的な変化を実感！

- ・クラスの雰囲気が変わり、生徒同士が助け合ったり協力する場面が増えた、活動内のタスクをやり切ることで自信がついた、等の子どもの声。
- ・生徒の暴力/いじめ等について「頻繁に見られる」と回答した割合が2割から1割に減少！

### 成果②：ガイドライン/教員向けハンドブック/視聴覚教材等の完成、特別活動コーディネーター任命等、活動継続への整備

- ・新しい知識/技術の習得により、生徒の変化を直接目にした教員自身の意欲が向上！社会性/協調性の重要さへの認識が深まる。

## 事業の波及効果



### 拠点の拡大&日本式教育の価値の再発見！

- ・生徒、教員はもちろん、教育省、保護者へのポジティブな変容が見られ、教育省はさらなる拠点地域の拡大を検討。教育省や現場のさらなるニーズを踏まえた次期案件が採択され、他の教育分野プロジェクト「学習環境改善を通じた初等教育退学抑止プロジェクト」（2021年12月開始）との連動も期待。技術協力プロジェクトではカバーできない難民キャンプでの活動を担うことで連携し、平和構築へのさらなる礎に。
- ・日本の教育では当たり前に行っていた「特別活動」の価値の再発見にも繋がった。